

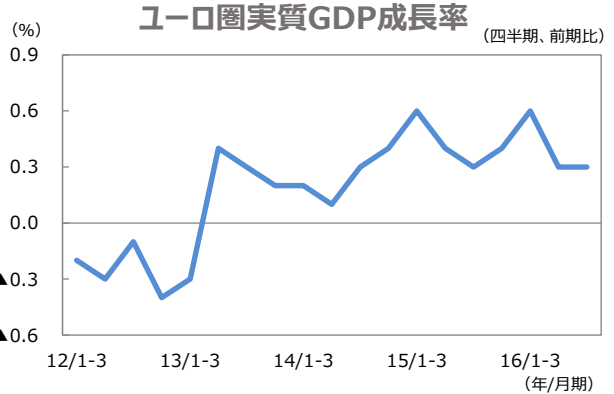
今日のトピック ユーロ圏のGDP成長率（2016年7-9月期速報値）

7-9月期は前期比+0.3%、堅調を維持する見通し

ポイント1 7-9月期は前期比+0.3%

英国のEU離脱選択の影響は限定的

■ 2016年7-9月期のユーロ圏の実質GDP成長率（速報値）は前期比+0.3%と、4-6月期と同水準の伸びとなりました。前期と同様に内需、特に個人消費の成長が続いたと見られます。英国のEU離脱選択が景気見通しの下振れリスクとして意識されていましたが、今のところ域内経済への影響は限定的と見られます。



(注) データは2012年1-3月期～2016年7-9月期。
(出所) Bloomberg L.P. のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

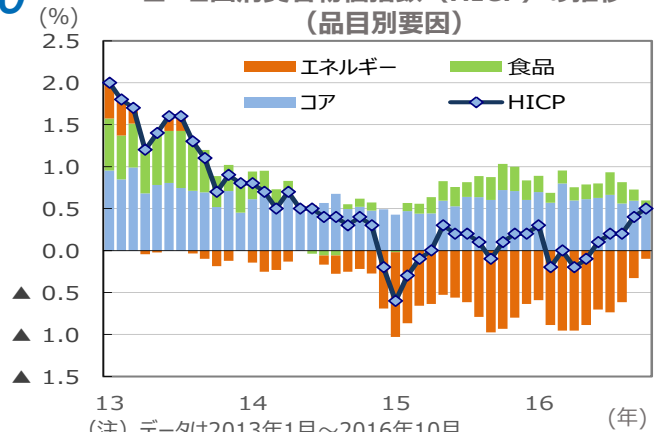
ポイント2 来年前半にかけ堅調な見通し

輸出見通しが改善傾向

■ 足元では景気の先行指標における輸出期待がドイツを中心に改善しています。特に、自動車販売統計については、米国向けが弱い一方で、中国向けが増加基調で推移するなど、ドイツの輸出を取り巻く環境がやや改善する可能性が出てきました。10月のIFO輸出期待DIでも自動車は大きな上昇が見られました。

■ 輸出見通しが改善していることから、2017年1-3月期にかけて、当面は景気の拡大が続く見通しです。

ユーロ圏消費者物価指数（HICP）の推移（品目別要因）



(注) データは2013年1月～2016年10月。
(出所) Datastreamのデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

今後の展開 長期金利は緩やかにレンジを切り上げる展開へ

■ 10月のユーロ圏消費者物価指数（速報値）は、前年比+0.5%と、前月の同+0.4%から若干加速しました。価格変動の大きいエネルギーの物価下押し圧力が薄まっており、インフレ率は当面緩やかに上昇すると見られます。

■ 景気が堅調に拡大し、物価が緩やかに上昇すると見込まれることに加え、来春以降はECBの金融緩和の縮小への思惑が徐々に高まると思われる、長期金利は緩やかにレンジを切り上げる展開になると考えられます。

ここもチェック!

2016年10月26日 最近の指標から見る欧州経済（2016年10月）

2016年10月21日 ECBの金融政策（2016年10月）現状維持：12月追加緩和を予想

■ 当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■ 当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■ 当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■ 当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■ 当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■ 当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■ 当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。